

Suma Tomogakoka 通信

兵庫県立須磨友が丘高等学校 総合学科推進部
令和4年度 第4号 12/23

11 月度学校説明会



11月12日と26日には本校に関心を持ってきている中学生に対して学校説明会が開催されました。12日のプログラムには授業見学や部活動体験が、26日には課題研究発表や部活動見学が企画されていました。12日は約290名が、26日には340名近い人数の参加がありました。

本校の学びの魅力が少しでも中学生に伝われば良いなあと思いました。両日とも準備から当日の運営や中学生対応など生徒会、放送委員会、そして多くの部活動の生徒の皆さんの協力で無事に終わりました。

1 年次 カタリ場 (産業社会と人間)

12月16日(金)はキャリア学習プログラムとして「カタリ場」を体験しました。年齢の近い大学生との出会いをきっかけに今の自分、これからの自分を考える一つの機会として捉えて欲しいと思います。今回も約30名の大学生が訪問してくれました。高校生から興味のあることや進路について考えていることなどを話題に大学生自身が自分の高校時代の失敗・成功体験を語りかけ、高校生がその言葉、話から自分を見つめる時間となりました。



【生徒の感想】より

「カタリ場」の授業で、自分と当てはまっていることがたくさんあったり、共感することがたくさんありました。二人の先輩の話を聞いて、自分の直すべきところがたくさん分かったし、自分が今後どう行動すべきか分かったので良かったです。明日から自分が決めた目標があるので、やるべきことをやって行きたいと思いました。

2 年次 課題研究 探究の発展的な取り組み

【中・高生 探究の集い 2022】

12月17日(土)、関西学院高等部主催の「中・高生 探究の集い 2022」が関西学院大学上ヶ原キャンパスで開催され、2年の濱田優さんがオープン部門に参加しました。課題研究や生徒会活動を通して探究してきた成果についてポスターを使って発表し、また他校の発表者と互いに質問をしました。

今回は兵庫県内外から計45校が参加し、非常に盛り上がる会となりました。他校の生徒の発表や生徒交流会を通して、刺激や意欲をもらう一日となりました。



【甲南大学リサーチフェスタ 2022】

12月18日(日)、甲南大学主催のリサーチフェスタ 2022に2年の阪本純加さん、橋本心温さん、田中凜さんの3名が出場し、課題研究で取り組んできた自身の「研究」について、Zoomを利用したオンライン会場で発表しました。自分に取り組んできた成果を他校の先生や生徒に見てもらうことができ、大変よい機会となりました。質問をいただいたことで客観的に自分の研究を見直すことができ、また上手く答えられなかったことも含めて改善・発展させるポイント見つかりました。ぜひこの体験から学び、レベルアップしてもらいたいです。

3 年次 活動報告 アンケートより

前号で紹介したクロスカリキュラムが11月末で終了し、これで3年間の全ての探究活動が終わりました。3年生にこの3年間の振り返って、本校での学びの感想を書いてもらいました。

【生徒のアンケートより】

・自分が興味のある分野で課題研究に取り組んだ。今までは疑問に思ったことをそのままにして放っていたが、次々に生まれる疑問に対して積極的に色々な情報を集め、自分の力で解決しようとすることに楽しさと達成感を感じた。そして自分なりに出した答えを人に分かってもらいたいという思いから、プレゼンにも力が入り、分かりやすいスライド、原稿、話し方を考えた。今までプレゼンとは、ただ説明するものだと思っていたが、聞いている人を納得させることが最大の課題だということに気づいた。5000字の論文を完成させることは、課題研究に取りかかる前は無理だと思っていたが、どの情報を組み合わせれば説得力が増すかを考えて文字数が足りなければ更に深入りして調べたり、文字数がオーバーしていたら要約するなど、どうにか5000字にまとめることができた。自分の主張が途中で分からなくなることもあったが、最終的に自分の納得いくものができたと思う。自分で何回も読み返して納得していたが、友達と読み合いをすることで、より自然な文章を書くことができた。

・大人になっても興味を持ち続ける姿勢を持ち続けられるようにしたい。友が丘で経験した産社、課研、クロスカリキュラムを通して自分の意見を伝える力、まわりの人となにかをつくり上げる力を持ったと思う。将来、働き始めても、必要だと思う。私は資格を持って社会の役に立つ人になるために、まわりの人との協調性を大切にしたい。

・「産社」の職業研究の授業で、建築士の方の話に、資格を取ることを目的に大学に行かないで欲しいという言葉聞き、私は大学や将来の自分への考え方が少し変わった。建築士の方は、京都大学卒業と一級建築士の資格を持っていたが就職のとき以外必要なかったと言っていた。このとき私は社会には資格や学歴が全てでなく、それ以外に大切なことがあると思った。私は自分で考えて積極的に動く力が大切だと考えている。これから大学や仕事で研究、開発を行うことが多くなってきたときに授業のように教えてもらうのではなく、自分で問題を考えて、解決に向かって行動できる人が社会にでも活躍できると思っている。だから、自分もそのような力を持てるように大学などでも研究を続けたいと考えている。

・私が課題研究を進める上で、最も苦戦したのはテーマを決定することだった。初めに決めたテーマは、興味はあったものの調べていくうちに自分の意見が変わってしまい、研究を広げることができなかつたが、普段から関心があったニュースなどに目を向けてみてテーマを決定したところ、様々な文献が見つかり、自分の意見を説得力のあるものにすることができた。課題は身の回りであって、日々アンテナを張って生活することが大切だと気づいた。また、情報収集をする上で情報源を確認し、本の中から引用するなど信用できる情報でないとい他人を説得することはできないので信憑性の有無を意識してたくさん文献を読んだ。

2 年次 大学での図書館研修

12月19日、20日と2日に分けて本校と一番近い大学である神戸女子大学との連携活動として「図書館研修」が実施されました。コンパクトな規模の大学とはいえ、所蔵書籍数は29万冊あり、学生の研究活動を支えています。

これから大学や専門学校に進学する3年生の皆さんも、また課題研究の論文を手直りする2年生の皆さん、また1年生の皆さんは4月から新たに課題研究に取り組みます。インターネットで情報を収集する場面が増えましたが、全ての情報が入手できるわけではありません。大学での図書館における貸出冊数と成績には相関関係があることがすでに判明しています。特にゼミ活動が活発化する大学3年生からは図書館利用は授業の「学び」を活性化するものと考えられています。

本校から徒歩で約30分、女子大学ですが、高校との連携活動として男子高校生の受け入れは初めてとのことで、準備には検討を重ねられたと聞きました。19日は国際教養学科の荘准教授によるミニ講義「台湾のジェンダー教育」を受けた後、資料探しをしました。20日は史学科の鈴木准教授による先生自身の研究活動と書籍の使い分けを実際に使用されている本を手にとって説明していただきました。本校の図書館利用もさらに活発になることを期待しています。

授業紹介 「神戸学」(3年次選択科目)

11月16日の授業では元県立高校の教員で、現在ではジャズヴォーカリストとして活動されている岡村正史さんに来ていただき「神戸とジャズ文化」と題して講義をしていただきました。神戸は日本における「ジャズの発祥地」として広く知られているわけですが、配布された資料を見ると、高校生にアンケートを取った結果がまとめてあり、それによると「高校生が好きな音楽ジャンル」の結果として1位がJ・POP、2位はK・POP、3位はアニメ・ゲーム音楽と続き、ジャズは7位でした。神戸に住んでいても高校生はなかなかジャズとは縁遠い音楽のようです。

しかし神戸市内にはジャズを聴かせる多くのジャズスポットがあります。授業を受けた人の中からジャズに興味を持つ人が出てくることを期待します。授業ではアメリカにおけるジャズの歴史、ジャズの発祥、ジャズの音楽スタイル、また年代別流行や神戸のジャズ、歌謡界とジャズなど様々な角度からジャズを捉えてのお話を聞きました。また貴重な音源を聴かせていただきました。音楽としてのJAZZから歴史や政治、風俗へと学びが広がる授業でした。

